

観音寺中学校 道德通信 11月号

昼夜の寒暖差が大きく、体調を崩しやすい時期ですね。食事で栄養をしっかりチャージするとともに、早寝早起きを心がけて睡眠時間を十分に確保することで、生徒たちには2学期後半も元気に過ごしてもらいたいところです。

さて、2年生は職場体験学習の前に、働くことのさまざまな意義について考える授業を実施しました。

段ボールベッドへの思い【勤労】

職場体験で「私たち」は段ボールを作る会社を訪問し、お客さまの要望に沿ったものをきちんと納品することで、初めてお金が得られることを教わった。また、災害時に、段ボールベッドを考案して無償で提供したり、設計図を他の会社にも公開したりしたことを聞く。これらの話を通して、「私たち」は働くことの意義を考えた。



○ 授業を通しての感想（生徒記述より）

人や職業によって様々だけど、人のための仕事はほとんどだと思うから、そういうところで働いている人は「みんなの生きやすさのため」に働いている人が多いと思いました。誰かのために一生懸命に働いている人はカッコいいと思ったし、そういう大人になりたいと思いました。

働くことはお金を稼ぐことだけではなく、お客様一人一人の暮らしを良くすることもできると気付きました。私が職場体験をしたり将来働いたりするとき、どうしたらもっと良くなるかな？どうしたら要望に応えられるかな？と考えて働きたいです。

物を作ってお客さんに提供したときの感謝の気持ちや、困っている人々の支えになりたいという思いが、明日も頑張ろうという気持ちにつながるのかなと思いました。仕事はとても大変そうだけど、大変だからこそやりがいを感じるのかなとも思いました。

働くのは大変なことだけど、たくさんの人を助けることができたり、お客さんとか周りの人から感謝されたりするから、頑張ろうと思えるんだと思いました。自分が働くとき、自分のためもあるけど、周りの人たちのためっていうことも考えたいと思いました。

働くことは、お金や生活のためなど、自分や家族のためもあるけど、たくさんの人が幸せになれるように働いているのだと感じました。人のために働くことは、人々の生活を良くし、安心・安全な生活をつくり、働く人たちは、使ってくれた人が笑顔になることでやりがいを感じることができると思いました。

働くことはもちろんお金のことも大切だけど、人を助けたい、人を守りたいなど、自分のこと以外に視点を向けることが大切だと思う。

自分が働くことによって誰かに幸せになってほしい、何かの役に立ってほしいという気持ちで働いていると思いました。お金のためだけで働いていたら、いつか絶対しんどくなってやめてしまうと思うから、自分がやりたい仕事を選び、たくさんの人を救えるようになりたいと思いました。

働くとは、お金を稼ぐだけでなく、人にいい思いをしてもらったり、人を一人でも多く助けたりする様々な意義がある。段ボール会社の人は、一人でも多く助けるために、全国どこで地震が起きても支援ができるようにという思いで、利益よりも人の気持ちを考えて無償で提供していた。

道徳通信10月号の返信より

- 一人ひとりが、命の尊さを理解し、自分自身の命を大切にすることで他者の命も自ずと大切だという気持ちが芽ばえると思います。命の大切さを心に築き、学校生活や家庭での取組みを一つひとつ大事にしてほしいです。
- 私も我が子に会えたときの喜びはとても感動的でした。大切にかけがえのない存在は、反抗期になっている今も変わりません。これから大人になっても大切な我が子なんだろうなと思いました。

ご返信、ありがとうございました♪

ご感想やご意見がございましたら、LEBER（リーバー）のアンケート「返信欄」にてお気軽にご回答ください。たくさんのご返信をお待ちしております。